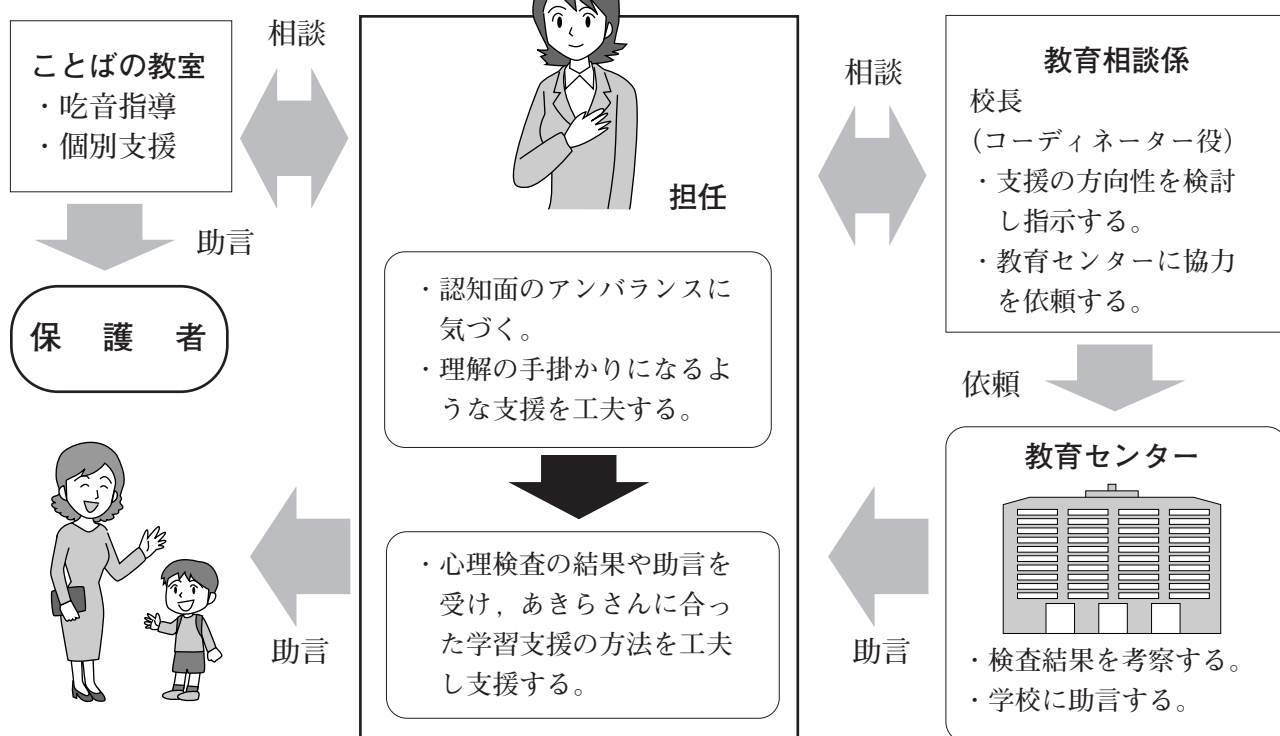


## 事例 2 書字困難があり、言語理解が難しいあきらさん (小学校1～3年)

LD (学習障害)



あきらさんは、元気な1年生。にこにこ話し掛けてくれますが吃音があり、話すことに抵抗があります。授業では教師や友だちの話の内容を理解するのに時間がかかるせいか、指示ややり方が分からず困っていることもあります。写し書きが苦手で、平仮名や漢字もなかなか覚えられません。



### <支援のポイント>

- 1 通常の学級での学習支援とことばの教室での個別支援を連携して行う支援体制づくり
- 2 学習の場面などで、あきらさんの得意な面を踏まえた指示の仕方・話し方・聞き方の工夫
- 3 通常の学級での学習内容や学習方法への、検査結果に基づいた専門機関の助言の活用

3年生になった今、あきらさんは自分から進んで学習に取り組むようになり、挙手や発言も多くなりました。また、歌やリコーダーなど様々な学習場面でのびのびと表現する姿が見られるようになり、自信が出てきたことがうかがえます。文章問題も分かるようになりたいと頑張っています。

## ●「おやっ？」と思う担任の気づきから

あきらさんは、友だちに意地悪をしたり迷惑を掛けたりすることはありません。ただ、学習内容を理解するのに時間がかかることがありました。しかし、学習内容によってはすらすらと問題が解けることもありました。「ただ理解できないわけではないのでは」と担任は疑問に感じていました。

## ●連携しながら支援の方法を模索

担任は、つまづいている学習内容は何か、どのように支援したら理解できるのかを考え、教材や授業展開を工夫するように心掛けました。また、吃音があることから、通級している「ことばの教室」の担当者に相談し、学習でつまづいている内容についても個別の支援を依頼しました。

「ことばの教室」の担当者の提案で、保護者の理解も得ながらWISC-Ⅲを実施しました。校長が検査結果の考察を教育センターに依頼し、次のような助言が届きました。

- (概略)
- ・聴覚的刺激に弱く、視覚的刺激に強い。
  - ・概念の定着が難しい。
  - ・長い文や多語文を聞いた時、記憶の関係か、言葉を覚えて意味を把握することが難しい。

## 学習支援のポイント（＊「支援の実際」(p.38・39) 参照)

視覚的刺激に強い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指を折りながら話を聞くように助言する。</li> <li>・文章題では、図や絵を添えたり色別のアンダーラインを引いたりする。</li> <li>・映像を残し、視覚的にイメージ化できるようにする（資料1）。</li> </ul>
概念の把握が難しい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚的にイメージ化を図るとともに、生活と結び付いた言葉で説明する（資料2）。</li> <li>・子ども同士の言葉・意見を大切に授業展開をする（4 学習の定着）。</li> </ul>
文の意味を把握するのが難しい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示を短くする。説明を簡潔・簡単にする。</li> <li>・文章題では分かったことや出す答えは何かを整理して提示する。</li> <li>・単元によっては授業の流れのパターン化を図る（資料4）。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あきらさんが苦手としている計算では、教科書の方法にこだわらず、得意な方法を取り入れる（資料3）。</li> </ul>

## ●学習への取り組みが変わってきたあきらさん

それまで学習への取り組みが消極的だったあきらさんは、認められる場面が多くなったり学習の仕方が分かってきたりしたことで、授業中挙手したり発言したりする姿が目立ってきました。友だちの前で積極的に話すことも増えました。漢字の学習では得意な視覚的イメージで覚え、定着するようになってきました。また、算数の計算では位取りも理解し、筆算もスムーズにできるようになりました。

こうした取り組みを現在の3年生まで継続してきています。「先生。そろばん簡単だね」とうれしそうに学習に取り組むあきらさんです。

あきらさんへの支援の実際を紹介します。



学級集団の中でできる効果的な学習支援を考えてみました。

学習支援のポイント：視覚的・聴覚的・触覚的・運動的・社会的刺激に強いところを生かす。

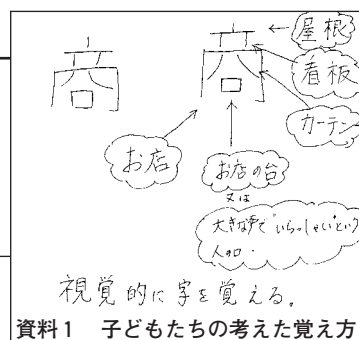


- 生活に結びついた具体的な言葉を使用する。
- 指示・説明は簡単・簡潔にする。
- 得意な方法を取り入れる。

## 1 漢字の学習（1～3年）

- ▲ つまずき：平仮名・片仮名・漢字が、なかなか覚えられない。
- 支援の方針と実際

- (1) 文字の成り立ちなどの学習を取り入れ、視覚的な印象を残す。
- (2) 全体の形を大まかに把握できるようにする。
- (3) 書き順を色分けし、順番を意識したり弁別しやすくしたりする。
- (4) 偏・旁により文字の構成を考える、唱歌や子どもたちの考えた覚え方（資料1）を活用するなど、様々な方法を提案し、あきらさんの得意な方法で覚えられるようにする。

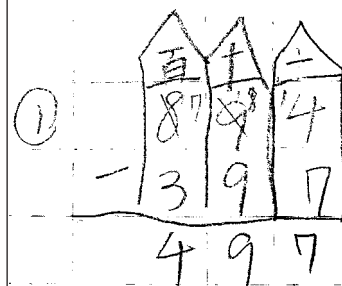


## 2 繰り上がりのある足し算・引き算の筆算（3年）

- ▲ つまずき：数字をそろえて書けない。  
位の意味が分かりにくい（例：二百一を2001と書き間違えることがよくある）。  
繰り上がり，繰り下がりの意味が分からないことが多い。
- 支援の方針と実際（\*算数の同好会の実践を参考にしました。）

- (1) 数字をそろえて書けるように，マス目のノートを使い，位が分かる縦線を書くようにする。
- (2) 概念の定着を図るため，生活で使用する言葉を使う（資料2）。

- 一の位は「1のおうち」，十の位は「10のおうち」
- +（たす）・-（ひく）は「大家さんの命令」
- 答えは地下に書くので，地面の線をひき，「地下1階」に
- 繰り上がりは「引っ越し」

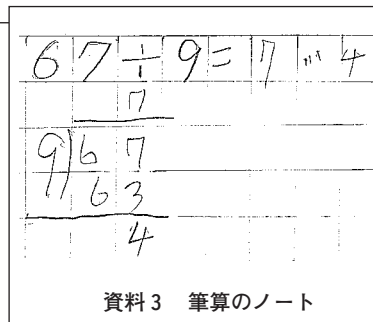


資料2 筆算のノート

### 3 簡単な暗算（1～3年）

- ▲ つまづき：13÷4というような暗算の計算の学習で、暗算の仕方や順序が理解できない。
- 支援の方針と実際

- (1) 計算の操作が視覚的に見えやすい筆算を利用して学習する（資料3）。
- (2) 教科書の順番では筆算の導入はまだ先であるが、あきらさんに応じたやりやすい方法の提示を大切にする。
- (3) 自分の力でできることが分かれば、自信をもって自ら計算に取り組むことが期待できる。



### 4 学習の定着（3年）

- ▲ つまづき：前に学習したことを忘れてしまうことが多く、知識や概念の定着に時間がかかる。
- 支援の方針と実際

- (1) 児童の言葉で授業を進め、学習内容を確認していく。
- (2) 児童の様々な考え方を引き出し、かかわり合って学習することで、あきらさんの学びのヒントになるような方法を見いだしていく。

### 5 学習の見通しややり方の理解（1～3年）

- ▲ つまづき：学習の見通しがもてない。  
授業や学習の仕方を理解するのに時間がかかる。
- 支援の方針と実際

- (1) 授業によっては、授業の流れのパターン化を図っていく。  
例：漢字・かけ算など（資料4）。
- (2) 学習の見通しがもてると手順ややり方に戸惑わず、積極的に授業に取り組むことが期待できる。

- 1 指書き
- 2 読み
- 3 熟語集め
- 4 覚え方
- 5 書き順
- 6 空中書き
- 7 暗記書き
- 8 漢字練習

資料4 漢字の学習の流れ